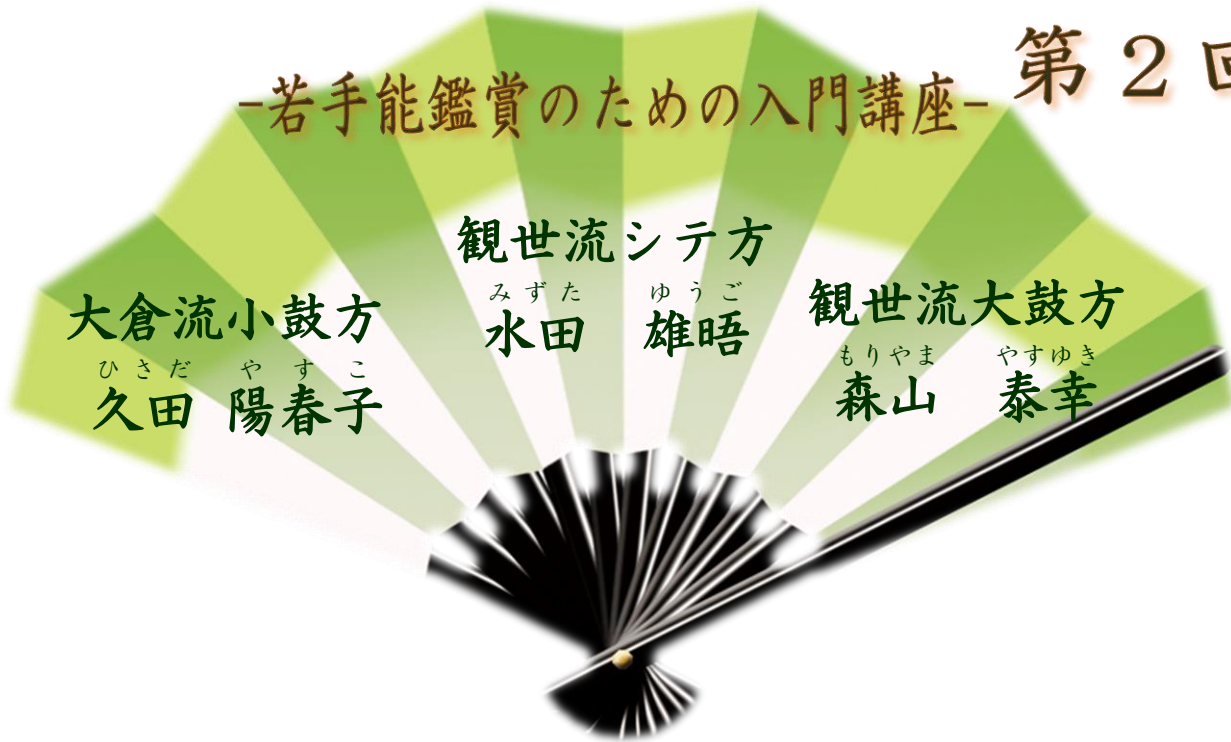


うたいぼん

謡本をよむ

-若手能鑑賞のための入門講座- 第2回



大倉流小鼓方
ひさだ やすこ
久田 陽春子

観世流シテ方
みずた ゆうご
水田 雄悟

観世流大鼓方
もりやま やすゆき
森山 泰幸

能の台本を「謡本（うたいぼん）」といいます

平成29年1月21日（土）に行われる、第26回「若手能」の演目から「鶺鴒（うかい）」の解説を聞き、謡本の一部を、みんなで声に出して読んでみましょう

日時：平成28年12月18日（日） 13時～14時
場所：城東図書館多目的室
定員：当日先着60名 入場無料

大阪市立城東図書館



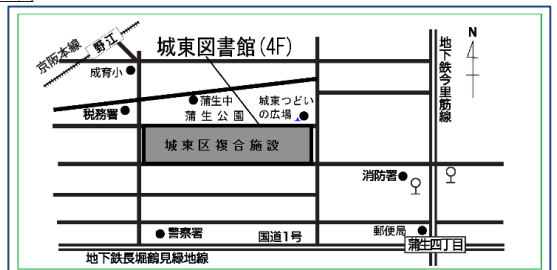
〒536-0005 大阪市城東区中央 3-5-45

電話(06)6933-0350

大阪市立図書館ホームページ

<http://www.oml.city.osaka.lg.jp>

城東図書館のページはトップページ右側のリンクからご覧いただけます。



演目について

鶺鴒 (うかい)

能の曲目。五番目物。五流現行曲。原作は榎並（えなみ）五郎、世阿弥（ぜあみ）改作。旅の僧たちが甲斐の石和（いさわ）川に赴く。川のほとりで宿を借りようとするが、土地の者（アイ）に禁制だと断られる。川辺のお堂に泊まると、鶺鴒使いの老人が来かかるので、言葉を掛けてみると、僧の一人が以前に接待を受けた宿の老人だった。老人は、実は自分はすでに死んで地獄に落ちている者だと打ち明け、殺生禁断の場所で鶺鴒を使ったのが見付き、川に沈めて殺されたのだと物語る。そして罪滅ぼしのためにといて、生前そのままに鶺鴒いをして見せる。鶺鴒ノ段とよばれる鮮烈な演じどころである。やがて闇の中へ消え去る（中入）。僧が小石に法華経の文字を記して吊うと、地獄の鬼が現れ、一僧一宿の功德と法華経の力で老人は成仏したと告げ、この経を賛美する（〈ロンギ〉）。

鶺鴒いの営みの面白さを生き生きと描く〈鶺鴒ノ段〉を中心とする素朴で古風な構成の能である。一曲の主題は前場にあるが、後ジテは前ジテと別人格の冥土の鬼なので、その登場の際に工夫のある小書が多く、アイがなく早装束で出たり、変化に富む後場となる。

“鶺鴒（能）”，日本大百科全書（ニッポニカ），JapanKnowledge，

<http://japanknowledge.com>，（参照 2016-11-02）

「新版 能・狂言事典」 平凡社

城東区は能の祖、榎並猿楽の発祥の地です

地域ゆかりの伝統芸能にふれてみませんか？

